

今として 未来

県環境アドバイザーからの提言

▶▶ 5

私たちは自然の恵みなしでは生活できない。生態系から提出される資源(清浄な空気、水、肥沃な土地)など、科学技術が発達した現在でも人がつくり出すことのできない、そして生活に欠かせないものばかりだ。

山地、林地の生態系の機能は、地域の林業、農業ばかりでなく、地域の生活文化を育ててきた。私たちの祖先はこの自然の恵みを分かち合い、自然との共生を水田として培ってきた。人が自然界に手を加えると、自然のバランスが崩れることが多い。水田は自然の中にとけこみ、トンボ、メダカ、ゲンゴロウなど

生産と生物多様性の場

の小さな生き物のすみかになっている。まさに水田は自然環境の一部となっている。それだけではなく、降った雨を一時貯水して、ゆっくり流してくれる。日本の国土の洪水を防ぎ、自然のダムの働きをしている。私たちが食糧とするコメを作るために人工的に作られたものが、現在は日本の伝統的な自然の恵みを分かち合う私たちの故郷にもなっている。



前橋市内での救援米の田植え風景—昨年

現在、この水田の荒廃が問題となっている。水田は人が生産に活用しながら、野生動物の生存をも可能にしてきた。このように生物多様性の維持に欠かせない水田は、コメ

が作られてこそ多くの生物の生息が保たれるのだ。

この役割を担っているのが農村、農家の皆さんだ。作付けされていない水田が多くみられるようになり、自然環境の悪化が心配されている。自然環境、国土の保全に果たす水田の役割について認識は深まってきてはいるが、水田の維持管理を

実際に担っている農村、農家の現状について、さらに、私たちが協力して祖先が長年にわたり耕し、守ってきた水田文化を継承していくことが求められているのではないだろうか。



水田を守ろう

【いづか・ただし】
前橋市山玉町。県環境アドバイザー副代表。
県自然保護団体連絡協議会。

(飯塚 忠志)